

旧城下町の歴史的敷地におけるコモンスペースの構成に関する研究

一 栃木県下都賀郡壬生町を事例として一

旧城下町 コモンスペース 歴史的建造物 敷地構成

169252U 山口睦生

1. 序 栃木県下都賀郡壬生町は日光と江戸をつなぐ日光道中壬生通り(図1)の重要な宿場町で壬生城の城下町であったため、寺社地や町屋などが点在している。こうした歴史的な敷地は、現在まで町の人々に共有されるコモンスペース^{注1)}の一部として機能してきたと考えられ、また、かつて寺社地であった壬生町庁舎では、移転に伴い跡地をコモンスペースとして活用する方策が求られている。こうした歴史的な敷地のコモンスペースとしての側面を検討するため、本研究では、外部空間と建物からその構成を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象と分析方法 壬生町は徳川家の重臣の鳥居家が城主をつとめた壬生城の城下町であり、多くの寺社地や文化財がみられる。町内に残る寺社地12件^{注2)}と町屋3件^{注3)}を対象とし(図2)、寺社地は、現存するものと、廃寺したが名称を変え縮小したものに区分した。これら15件の対象敷地についてゼンリン住宅地図をもとに現地調査を行い、外部コモンスペースと建物のコモム用途や配置を検討し、それらを重ね合わせた構成を検討した(図3)。

3. 外部コモンスペースの構成

3.1 外部コモンスペースの形状と境界要素 まず、外部コモンスペースの形状と境界要素について検討する。

外部コモンスペースを、舗装された道である道型、舗装されず動線が定められていない広場型、両方の性質を併せ持つ道・広場型として整理した(表1)。また、外部コモンスペースの境界要素は、植栽や塀で道路や駐車場を区分するものが多くみられた(表2)。

3.2 敷地へのアプローチ 次に、外部コモンスペースへのアプローチを検討する。敷地に前面街路から直接敷地に入るものと、引き込み道路を介して間接的に入るのが比較的多く(表3)、前面街路は大幅員が多かった(表4)。また、駐車場をもつ敷地も多くみられた(表5)。

3.3 外部コモンスペースのパタン 前節までの形状とアプローチから外部コモンスペースの構成を整理した(表6)。引き込み道路から間接的にアプローチする道・広場型には現存する寺(●.4/4)が該当し、前面道路から直接アプローチするものには廃寺し縮小した寺(○.2/4)が多く、道型では町屋(◎.2/3)が特徴的にみられた。

4. 建物のコモム用途と配置の構成

4.1 コモム用途 対象敷地の寺社地や町屋には、保育園や公民館のような用途を含むものがあり(表7)、これらは建物内部にコモンスペースをもつと捉えることができる(コモム用途)。また、主屋以外に事務所や石蔵、門などがみられ(表8)、多くの敷地に門が設けられていた。

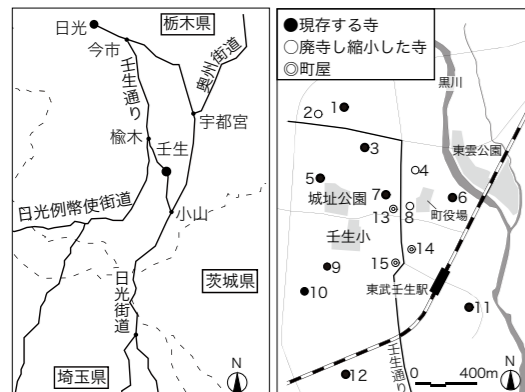


図1 日光道中壬生通り

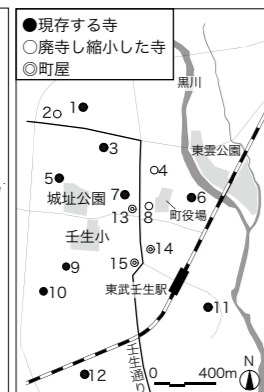


図2 対象敷地の分布

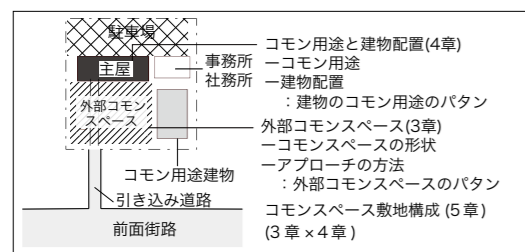


図3 分析モデル

No	名称	建築年代	状態
1	壬生寺	1686	●
2	八幡神社	1582	○
3	常楽寺	1489	●
4	薬師堂	不明	○
5	精忠神社	1849	●
6	雄琴神社	928	●
7	興光寺	1400	●
8	雷電宮	1602	○
9	豊栖院	1522	●
10	興生寺	1470	●
11	縄解地藏尊	不明	●
12	愛宕神社	不明	●
13	石崎家	-1890	◎
14	松本家	明治期	○
15	小田垣酒造	明治末期	○

植栽	塀	段差	無し
6	4	2	6

直接	間接
6	7

大幅員(W)	中幅員(M)	小幅員(N)
8	3	4

有り	無し
9	6

道型 (4)	広場型 (6)	道+広場型 (5)
1 ●(1)	2 ●(1)○(1)	4 ●(4)
直接アプローチ (7)	間接アプローチ (8)	
3 ●(1)○(2)	4 ●(1)○(2)○(1)	

公民館	商店	医院	幼稚園	保育園
3	2	1	1	1

事務所	社務所	石蔵	門(長屋門)	鳥居
5	1	2	9	5

長屋門の内部が商店として活用され、門とコモム用途の機能が複合する特殊な例もみられた。

4.2 建物配置 敷地内の建物の配置について検討する(表9)。建物配置は、外部コモンスペースと隣接するものと、外部コモンスペースをL字や囲みで包含するものに分けられた。このうち隣接が多く、これには複数棟が並列して配置されるものもみられた。

4.3 建物のコモム用途のパタン 前節までのコモム用途の有無と建物配置から、建物のコモム用途のパタンを導いた(表10)。コモム用途がある敷地は複数の建物で包含する配置が多く、コモム用途が無い敷地は隣接する配置が多くみられた。また、コモム用途が無い敷地の隣接する配置の現存する寺(●.5/6)とコモム用途がある包含する配置の現存する寺(●.4/5)の数が多く、コモム用途がある隣接する配置は廃寺し縮小した寺(○.2/3)が多く該当した。

5. 歴史的敷地におけるコモンスペースの構成 前章までの外部コモンスペースと建物のコモム用途のパタンを2軸として整理し、特徴が共通する5つの類型が得られた(表11)。まず、類型Iは、コモム用途を持たない建物が、広場型の外部コモンスペースと隣接し、前面道路から直接アプローチするもの(外部広場型)である。敷地境界に植栽や段差があり、敷地の独立性が高いものもみられる。同様に、コモム用途が付属していない類型IIは、道・広場型の外部コモンスペースと隣接し、引き込み道路を介し、敷地内の道と連続するもの(外部道連続・広場型)である。全体の中で該当数が多く、事務所や社務所の機能を持つ寺社地が多くみられた。これらに対して、建物のコモム用途を併せ持つものとして、類型IIIは医院や店

表9 建物配置と棟数 (15)

隣接	包含						
	L字			囲み			
1棟	2	3	4	1棟	2	3	4
3	3	3	0	2	1	1	0
				9	4	2	

表10 建物のコモム用途のパタン(15)

建物配置	隣接		包含	
	主屋	事務所・社務所	主屋	事務所・社務所
無	6 ●(5)○(1)	1 ●(1)	7	
有	3 ○(2)○(1)	5 ●(4)○(1)	8	

表11 歴史的敷地のコモンスペースの構成 (15敷地)

2章	外部コモンスペースのパタン			
	道型		広場型	
3章	直接アプローチ	間接アプローチ	直接アプローチ	間接アプローチ
	I		II	
建物用途無し 建物用途有り	No8 (○.無.W.無.鳥.1) No12 (●.段.植.M.無.鳥.1)		No5 (●.植.塀.W.無.門.鳥.1) No6 (●.植.W.社.社.門.鳥.1) No9 (●.無.N.社.車.門.3) No10 (●.植.段.W.社.社.門.1)	
	No3 (●.無.N.社.社.門.L.2)		No8 雷電宮	
	No3 (●.無.N.社.社.門.L.2)		No10 興生寺	
	No13 石崎家		No4 八幡神社	
No13-店舗 (○.無.W.無.門.3) No14-医院 (○.無.N.社.石.門.L.3) No11-公民館 (●.無.M.社.門.2)		No4-公民館 (○.無.N.無.鳥.2) No15-商店 (○.植.W.社.石.門.3)		
No7-幼稚園 (●.無.W.無.車.門.4)		No2-公民館 (○.無.W.無.鳥.2)		
No1-保育園 (●.植.M.社.社.門.L.4)		No7 興光寺		

注
1) コモンスペースとは、特定者が共同管理して利用する共有空間。廊下、階段、住宅地における共同利用庭園など(建築学用語辞典/岩波書店)とされており本研究では、地区の住民が利用する共有空間としている。
2) 「現代図に複合された壬生城と城下町(壬生城郭・城下町解説書/壬生町立歴史民族資料館)」に記載された21の寺社地より現在も残る12を抜粋した。
3) 石崎家(No.13)は町指定有形文化財、松本家(No.14)は国登録有形文化財に登録されている。

Study on composition of common space of the histoirc site in the castle town

-Case study on Mibu city, Shimotsuga district Tochigi-

山口睦生(YAMAGUCHI Tomoki)

建築計画研究室

指導教員: 安森 亮雄 准教授